



『花いっぱい運動』審査会に立ち会って

どこの地区も5月の一斉清掃と合わせて草花の植え込みを行なう。6月の猛暑には、水枯れや雑草の繁茂により植えられた草花の管理に大変な苦労。審査受賞をされた地区の役員さんに、植え込み秘話や日頃の管理について聞いてみた。見頃を過ぎた時期となり、ある地区からは来るのが遅いとお叱り！

※紙面の都合上、最優秀花壇と優秀花壇の紹介とさせていただきます。



地域をお花でデコレーション



★油平自治会★  
公園・広場花壇部門  
最優秀花壇

(油平クラブハウス北側)

大きく開いた打ち上げ花火をイメージした図柄を花の色で表現！大きな花壇にちりばめた花火の色合いを鑑賞するため、大きな梯子を用意して空から花火を見てほしいと作者の声。

★三内自治会★  
道路部門最優秀花壇  
(三内中央通り)

道路際の広場となる位置に花壇が作られていて、立体的構成に挑戦。ブロックで囲われた空間に咲きそろえた花の数々。

★西ヶ谷戸町内会★ 道路部門優秀花壇 (いなげや新草花店東南)

自治会長はじめ登録スタッフが参加。レイアウトもよく雑草の手入れを実施。今年のテーマ「世界平和」植えられた花は生き生きとして咲いていた。

★富士見台自治会★ 公園・広場部門優秀花壇 (北公園)

北公園広場の一角に作られた花壇。中央に盛り土をして立体的構図、上下に花が躍っていたのが印象的。花の種類も制限して流れを感じる。花の咲き頃に少し遅れてしまったのが残念！

令和4年秋季号 発行者／小山 正弘 編集／あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

資源回収あれこれ



家庭から出る資源を、地域の町内会・自治会で集め、契約した回収業者に引き渡す、自主的なリサイクル活動です。資源を回収業者に直接手渡すことで、資源の持ち去り対策としても効果的です。近年は、ご近所の仲間が増えています。

野辺町内会では、年々減少する会員数に歯止めをかけることや、その売上金で各イベントや防災活動など様々な活動などに有効に活用すべく令和元年度からこの活動に参加しており2ヶ月おき年6回実施しています。小雨の中でも実施して、回を重ねるごとに量も少しずつ増加してきています。皆様のご協力に感謝いたします。

野辺町内会 会長 丸山 誠司

こんにちは、私たち原小宮町内会では年間12回、毎月資源回収を行なっています。

町内会、各団体【遊友会、子供会、蕃椒（とうがらし）地蔵講】などで行なっています。市からの奨励金は各団体の活動費に使用しています。天候に関係なく毎回大勢の人に参加協力をしていただき1時間くらいで終了するようにしています。

令和3年度の資源集団回収優秀団体2位で表彰されました。これを励みに今後も続けて行きたいと思ひます。

原小宮町内会 会長 石毛 正典

コロナ禍で顕在化した生活課題

■東京都社会福祉協議会が昨年九月に発表した「コロナ禍で顕在化した地域課題」を読んだ。本書は区市町村社協にアンケートを実施した結果報告書である。この報告書は四つの課題に分類してある。■課題一、長期にわたる日常生活の変化に伴う影響は①高齢者のフレイル・認知の低下②障害者の交流機会の減少③親以外の大人との交流が減った子ども④発達障害のある学生の生活リズムの変化。■課題二、顕在化した新たな地域生活課題は①貧困世帯の不安定な状態②世帯が抱える複合的な課題③手助けが必要な子育て家庭④外国籍の居住者の生活実態⑤相談機関を知らない人や相談が苦手な人の多さ⑥ひきこもり等の複合的な課題の表面化。■課題三、地域活動の担い手と今後の活動のあり方への影響は①地域活動の停止による活動者のモチベーションの低下②町会等の交流行事の停止に伴う地縁関係や一体感の希薄化③地域に関心のある人は増えたのに既存の活動につながらない④中高校生のボランティア活動の減少。■課題四、情報格差への対応は①デジタルスキルの世代間の差②外国籍居住者の言葉の課題。■報告書は最後に「顕在化した課題の解決は社協だけでは難しい。これらの課題を地域の関係機関が共有し、地域で継続的に関わりながら地域生活課題として解決に取り組むことが必要となる。」とまとめている。■この報告書は福祉の視点からだが、各町内会・自治会の生活課題に置き換え、見えてくる課題設定と解決のヒントとなればと思う。

中村自治会 会長 宮崎 慶一

## 令和4年度 野辺町内会敬老大会



野辺町内会では、敬老大会の実施に当たり何度も打合せを行い実施の可否について議論を交わし新型コロナの感染状況を鑑みながら、約3年ぶりの敬老大会の開催となりました。

コロナ感染予防対策のため、入口での検温、飛沫防止シート、アルコール消毒、マスクの着用から、フェイスガードなど二重にして安全を図りさらに

万が一何かあったときには看護師に待機してもらうなどの実施となりました。

当日は、台風の影響で朝方まで大雨が降り、スタッフはびしょ濡れになりながら準備し人数が集まらないかと一同心配していましたが、予想を裏切る集客で、会員の皆様の笑顔がとっても素敵でした。

余興では、地元や関係者の伝で囃子神楽保存会から始まり、中国の二胡の演奏、踊りの会の舞踊、風を感じる南米音楽など最後はみんなで盆踊りを行いました。

来年も、皆様とこうして元気で会えることを出演者一同楽しみにしております。



## 小和田花火大会

小和田自治会 会長 榎本 秀雄

小和田自治会には、青年層の集まりで「和楽会」と言う会があります。

21年前、当時の会員が子供達の夏の思い出作りに豪華な手持ち花火を計画、秋川にある花火屋さんにご相談し、実施したのが第一回小和田花火大会です。

子供たちだけでなく地域の人々が感激。

次の年、次の年も計画されました。

地域の方からの寄付金も多くなり規模も徐々に拡大。小和田の人柄もあり多くの自治会員が実行委員として集まりました。

打ち上げる場所は山の尾根。警備も地元消防団に頼みました。

小和田花火大会が21回と長く続いているのは、地元の自治会員や賛同していただいている方はもとより、実施に向け協力してくれている細谷火工(株)、ホソヤエンタープライズ(株)が一丸となっていることです。

当日は台風が心配されましたが、天候が回復し、夏の夜空に大輪の華を咲かせることが出来ました。

今年は小和田の花火にウクライナ大使館のご家族がおいでになり、花火見物をされたとの事。地域の皆さんからウクライナ大使館の大使に義援金が渡されました。

そのほかの花火に付けられたタイトルも、世界の平和を、コロナに打ち勝って、秋川の自然、家族の健康などを願ったものが多くありました。



ウクライナ



世界平和を願って



芯入群光入千華

## 地域のおそびば -MASUKO-

### ～ご近所顔見知り計画～

コロナ感染症の影響で子どもたちを取りまく「おそび」環境は大きく変わりました。家にいることが多く、外遊びや人とのコミュニケーションも減少。

そこで、増戸の地域に安心して豊かに遊べる場を作りたいと「地域のおそびば -MASUKO-」の取り組みを始めました。自治会や子どもの活動に関わっているメンバーが実行委員となり運営しています。

第1回目は、増戸小の校歌に出てくる「誰かが山から呼んでいる～」を体現しようと花見山から校庭に向けてみんなで叫ぶ！というおそびをしました。久しぶりに友達や地域の大人と思いきり遊んで、いい笑顔で楽しんでいました。やはり「おそび」は子どもが生き生きと育つ上でとても大切なものだと再確認しました。

この企画は、2024年3月まで月1回計24回行われます。増戸小地域の自治会を回りながらその場所の地理を生かした様々な遊びを展開していきます。

※この活動はNPO法人「子ども劇場西多摩」が「東京都福祉保健財団」に助成金申請し、子供が輝く東京・応援事業として採択された活動です。

### 地域のおそびば



令和4年4月23日  
花見山から増戸小学校へ声が届くか？



令和4年5月14日 雨天にて増戸小学校体育館  
紙コップを積んだらどこまでとどくか！



令和4年7月18日 横沢入りにて  
川遊び

●会報第49号をお届けすることができました。広報部は、夏原会長以下、皆なれない広報誌作りに苦勞しています。

●この会報は連立会として、どのような活動をしているのかについて皆様に知っていただくことが第一の目的ですが、今回は、いくつかの町内会・自治会の具体的な活動について紹介をさせていただきます。それぞれに富んだ内容であったと思います。

●「資源回収あれこれ」では、その他にも原稿をお願いした町内会があったのですが紙面の関係で掲載することができませんでした。ごめんなさい。あきる野市ではごみの減量と資源化を進めるために「資源集団回収事業」を行っていて、集団回収を行っている団体に奨励金が交付されています。

●町内会・自治会にとって活動資金として、この奨励金は大きな魅力です。多くの町内会・自治会が、それぞれの目的を持って資源回収を行っています。

●今回の号から、あきる野市寿大学学長であつて中野自治会の現会長でもある宮崎慶一様に毎号コラムを担当していただくことになりました。その時々、地域の出来事等を通して、地域の現状や課題について執筆していただけるものと期待しています。今回は「コロナ禍で顕在化した生活課題」というタイトルで書いていただきます。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記